

## V 教科別の課題と分析

### 1 小学校 国語

# 設問別調査結果 [小学校 国語A：主として知識]

## 分類・集計結果

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◆ 50.1	53.0
	書くこと	1	◆ 84.2	86.0
	読むこと	4	◇ 55.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	◆ 74.9	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	1	◆ 50.1	53.0
	書く能力	1	◆ 84.2	86.0
	読む能力	4	◇ 55.5	55.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能	9	◆ 74.9	77.2
	選択式	7	◆ 65.7	66.4
	短答式	7	▼ 70.5	73.7
	記述式	0		

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1-1	漢字を読む (友人を家に招く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5-6 (1)ウ (ア)		○	◆	97.2	97.5	0.7	0.7
1-2	漢字を読む (自分の信箋をつらぬく)					5-6 (1)ウ (ア)		○	◇	97.3	96.0	0.6	0.9
1-3	漢字を読む (全員がすぐに承知した)					5-6 (1)ウ (ア)		○	◆	90.8	92.5	3.6	2.5
1-1	漢字を書く (シャワーをあびる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5-6 (1)ウ (ア)		○	▼	54.6	58.4	23.1	17.2
1-2	漢字を書く (鳥の足を観察する)					5-6 (1)ウ (ア)		○	▼	69.0	76.5	11.5	5.7
1-3	漢字を書く (びょういんに行く)					5-6 (1)ウ (ア)		○	▼	68.1	74.9	7.9	4.7
2-1	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える				1-2 (1)イ (カ)		○	▼	49.8	53.1	0.6	0.6
2-2	文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える				3-4 (1)イ (キ)		○	◆	69.7	71.7	0.5	0.5
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	5-6 エ					○	◆	50.1	53.0	0.5	0.5
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く		3-4 ウ				○	◆	84.2	86.0	0.4	0.3
5-1	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまともなものを選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える				5-6 ウ		○	◇	59.8	59.5	1.7	1.6
5-2	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く					5-6 ウ		○	▼	16.2	19.8	8.5	7.7
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	登場人物の相互関係を捉える				5-6 エ		○	◇	68.8	67.5	2.4	2.6
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る				5-6 イ		○	△	77.2	73.9	3.9	4.3

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

## 【設問分析】

### 1 漢字を読んだり書いたりする

1 は、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるものである。設問一は漢字を読むことについて、設問二は漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

### 【設問一】漢字を読むこと

- ・(1)「招く」、(3)「承知」をそれぞれ文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。(3)「承知」の主な誤答例は「承」を「しょう」と解答していないが、「知」を「ち」と解答しているものである。

### 【設問二】漢字を書くこと

- ・3問とも全国の平均正答率を下回っており、無解答率も高い。(1)「浴びる」の主な誤答例としては、同じへんや似たつくりをもつ「溶(びる)」や「治(びる)」、同じ発音をする「挙(びる)」と解答しているものである。(3)「巢」の主な誤答例は、「単」や「果」と解答しているものである。

「漢字を書くこと」については、依然として課題がある。習得した漢字を、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにするためには、習得した漢字を読んだり書いたりする機会を可能な限り多く、意図的・計画的に設定することによって、児童が漢字を身近なものとして捉えることができるようにする指導が重要である。具体的には、身の回りにある新聞や情報誌等に、習った漢字があるかどうか探す活動や、書いた文章を読み返し、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価する活動が考えられる。また、漢字を習得し、語彙を広げるために、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることが重要である。そのために、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくり、国語科に限らず、各教科等の学習の中でも積極的に辞書を利用する機会を設けることが考えられる。

## 2 文の構成を理解する

②は、文の構成について理解することができるかどうかをみるものである。

### 【設問一】

- ・文の中における主語として適切なものを選択する設問である。全国の平均正答率を下回っている。誤答例として、1の文の主語である「雨が」を捉えることはできているが、2の文の主語である「誕生日は」を修飾している「ぼくの」や「妹の」などの、人を表す語句を主語として誤って捉えたものが見られた。

### 【設問二】

- ・文を構成する主語と述語との照応関係を捉え、文の型として適切なものを選択する問題である。全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

主語と述語は、文の骨格をなし、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であるということについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるように指導することが必要である。さらに、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について、低学年のうちから段階的に、初歩的な理解ができるように指導することが必要である。

## 3 聞き方を工夫する

③は、話の内容に対する聞き方を工夫することができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。解答類型からは、提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて聞くことに課題があると考えられる。

相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分聞き取るとともに、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるように指導することが大切である。そのためには、例えば、高学年では、提案スピーチについて、提案の理由に着目して聞く、提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて聞く、提案の効果や妥当性を判断しながら聞くなどの聞き方のポイントを意識させながら聞く機会を繰り返し設け、考えたことをまとめることができるように指導する。

## 4 説明する文章を書く

④は、具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

伝えたいことを相手に分かりやすく説明するためには、伝えたいことの内容を明確にし、その内容に合った具体的な事例を挙げて書くことが効果的であることを理解できるように指導することが重要である。具体的には、伝えたいことを説明する文章について、具体的な事例を挙げて書いたものと挙げないで書いたものを提示し、読み比べることで、具体的な事例の効果を実感させたり、具体的な事例を挙げないで書いている文章のみを提示し、改善させたりするという指導も考えられる。

## 5 新聞のコラムを読む

〔5〕は、新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることができるかどうかをみるものであり、二つの設問から構成されている。設問1は、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている一方、設問2は、全国の平均正答率を下回っている。

### 【設問1】

- ・コラムの中で筆者の読書体験が書かれているまとまりを2つ選択する設問である。どちらか一方しか捉えることができていない児童の中には、3のまとまりにある「子供時代に」という言葉を「自分の読書体験」という言葉と結び付け、3を選択した誤答が多く見られた。

### 【設問2】

- ・コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く設問である。「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであると理解することに課題がある。

実生活で生きて働く言葉の能力として、目的に応じて、適切に引用することができるようになることは極めて大切である。このため、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。これらの指導においては、目的によって、どの文献のどこをどの程度引用するかが決まってくることから、児童が「自分の考えを補説したい」、「説得力を高めたり、具体例を挙げて読み手を納得させたりしたい」といった目的意識や必要性を十分にもてる言語活動を位置付け、課題解決の過程において指導することが必要である。

## 6 登場人物の相互関係を捉える

〔6〕は、登場人物の相互関係を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

物語などを読む場合には、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決などの基本的な構成要素を理解していくことが必要である。具体的には、登場人物の相互関係を図や矢印などを効果的に用いて人物関係図に表すことが考えられる。また、本を紹介したり推薦したりする言語活動において、目的をもって人物関係図を活用することも有効である。

## 7 作品募集の案内を読む

〔7〕は、作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

募集案内やポスターなどの文章や資料から情報を的確に捉えるためには、全体の構成や見出しなどに着目し、文章や資料全体の書き方の特徴を踏まえた上で、読み手にとって必要な情報を捉えるように指導する必要がある。例えば、複数の募集案内やポスターについて、全体の構成や見出し、項目などについて比べ読みをしたり、応募に必要な期日や対象範囲などの条件を示す語句の意味を的確に捉えさせたりする指導が考えられる。

# 設問別調査結果 [小学校 国語B：主として活用]

## 分類・集計結果

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	△	△
	書くこと	6	◆	61.1
	読むこと	6	◆	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	△	△
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	◆	52.8
	話す・聞く能力	0	△	△
	書く能力	6	◆	59.2
	読む能力	6	◆	66.1
	言語についての知識・理解・技能	0	△	△
問題形式	選択式	3	◆	67.9
	短答式	2	◆	79.1
	記述式	4	◆	52.8

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

記号の意味

(△) 上回っている

(○) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1-1	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	5-6 イ				○		◆	73.3	74.6	0.9	0.5
1-2	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	5-6 ウ				○		-	70.8	70.8	1.0	0.6
1-3	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	5-6 ウ				○	○	◆	32.3	34.7	4.8	4.0
2-ア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える		3-4 イ			○		◆	74.3	75.5	4.7	3.6
2-イ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く			3-4 イ			○		◆	84.0	86.0	7.5	5.6
2-2	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	5-6 ウ	5-6 ウ			○	○	◆	77.0	78.4	8.4	7.0
2-3	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	5-6 エ	5-6 ウ			○	○	▼	36.7	41.6	10.8	8.7
3-1	〈絵3〉の場面が始まるままとまりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える		3-4 ウ			○		◆	59.6	60.4	11.2	9.7
3-2	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	5-6 ウ	3-4 ア			○	○	◆	65.2	66.6	17.1	15.1

(△)上回っている (○)ほぼ同程度だがやや上回っている (-)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

## 【設問分析】

### 1 目的や意図に応じて新聞を書く〈卒業文集〉

1は、目的や意図に応じ、新聞の割り付けをしたり、見出しや記事を書いたりすることができるかどうかをみるものであり、3つの設問から構成されている。

#### 【設問一】

・目的や意図に応じ、新聞の割り付けをすることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

#### 【設問二】

・目的や意図に応じ、記事に見出しを付けることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と同じである。

#### 【設問三】

・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

新聞には、複数の種類の記事が掲載されていること、一番知らせたい記事が最初に大きく取り上げられていること、記事一つ一つに見出しが付けられていることなどの特徴がある。このような特徴を理解した上で割り付けをし、見出しを付けるなど、紙面全体の構成を考えて記事を書くことが重要であり、そのためには、新聞を書く目的や意図を明確にもつことができるように指導することが大切である。例えば、目的や意図に応じ、記事に見出しを付けることができるようにするために、目的や意図が異なる見出しに合わせて新聞記事を書き換え、読み比べる学習などが考えられる。また、取材した内容について、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分伝わるように、取材した複数の内容から取捨選択し、整理して記事を書くようにする指導も重要である。

## 2 目的に応じ、文章と図とを関係付けて読む〈だれが選ぶ どれを選ぶ〉

②は、目的に応じ、文章と図とを関係付けて読むことができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

### 【設問一】

・目的に応じ、中心となる語や文を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

### 【設問二】

・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

### 【設問三】

・文章と図とを関連付けて、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題であり、全国の平均正答率を下回っている。

自分の課題を解決するためには、説明的な文章を読み、利用することが必要であり、これは国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要である。そのためには、目的に応じて文章全体におけるそれぞれの段落の役割を理解し、段落相互の関係を押さえたり、事実と意見とがどのように区別されているのかを把握しながら中心となる語や文を捉えて読んだりできるようにすることが大切である。また、要旨を捉えるには、目的に応じて、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに着目できるようにし、求められている分量や表現の仕方などにまとめられるようにする指導が重要である。文章と図表やグラフなどと関連付けて自分の考えをまとめられるようにするためには、図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらを関連付けて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うことが考えられる。

## 3 相手や目的に応じて読み聞かせをする〈とんち話「びょうぶのとらのお話」〉

③は、場面の移り変わりに注意し、登場人物の行動や気持ちの変化について想像しながら音読することができるかどうかをみるものであり、二つの設問から構成されている。

### 【設問一】

・登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

### 【設問二】

・登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

文学的な文章における場面の移り変わりは、登場人物の行動や会話、情景などを基に捉えることが大切である。そのためには、各場面の様子を、叙述を根拠にしながらかくに捉えるとともに、場面と場面とを関係付けて読む指導が必要である。また、物語の魅力などが伝わるように音読するためには、場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちの変化を捉えることが重要であり、自分のもっている知識や経験などと結び付けながら何度も繰り返し読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができる。互いに聞き比べて助言し合い、自分の音読に生かす学習も効果的である。同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方には違いがあることを大切にし、音読の楽しさを味わえるよう指導することが大切である。

小学校 国語					
児童生徒質問紙【教科に関する設問】	年度	【1】	【2】	【3】	【4】
国語の勉強は好きですか	H26	26.1	36.0	23.9	13.9
	H27	29.3	35.3	22.6	12.6
国語の勉強は大切だと思いますか	H26	64.3	26.9	6.4	2.3
	H27	65.7	26.1	5.7	2.5
国語の授業の内容はよく分かりますか	H26	34.2	45.6	15.9	4.2
	H27	37.0	44.4	14.2	4.2
読書は好きですか	H26	53.7	22.2	14.3	9.6
	H27	53.3	21.5	14.3	10.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	H26	50.6	34.7	11.2	3.4
	H27	52.9	33.4	10.1	3.5
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	H26	18.0	38.9	33.9	9.0
	H27	21.4	38.4	31.6	8.6
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	H26	19.7	37.6	31.7	10.8
	H27	22.1	37.6	30.0	10.1
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	H26	30.4	39.9	23.1	6.5
	H27	33.2	38.7	21.6	6.4
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	H26	36.8	39.5	18.6	4.9
	H27	38.9	38.5	17.2	5.2

【1】当てはまる

(単位は%)

【2】どちらかと言えば、当てはまる

【3】どちらかと言えば、当てはまらない

【4】当てはまらない

#### <設問分析>

- 「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が64.6% (26年度62.1%)となっており、全国平均を3.5ポイント上回っている。児童の興味関心を引き出し、意欲を高める言語活動の充実などが要因と考えられる。今後もさらに学ぶ意欲を引き出す指導の充実が求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が91.8% (26年度91.2%)となっており、全国平均を0.2ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。今後とも、言語活動の充実を図り、児童が主体的に学び、実生活に生きて働くような学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値を実感するような授業を行うことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が81.4% (26年度79.8%)となっており、全国平均を0.6ポイント下回っている。昨年度と比較して向上が見られるが、今後も児童が意欲と見通しをもって学ぶことができるような学習過程、基礎的・基本的な指導事項の習熟とともに、児童一人一人の実態に応じた指導の充実を図ることが求められる。
- 「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が74.8% (26年度75.9%)となっており、全国平均を2.0ポイント上回っている。今後とも、一斉読書の推進に引き続き取り組むほか、国語の授業だけではなく、様々な機会を通して、児童の読書活動の一層の促進に取り組むことが求められる。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が86.3% (26年度85.3%)となっており、全国平均を2.3ポイント下回っている。昨年度と比較し、向上しているが、今後も、日常生活に生きて働く国語の力を付けるため、言語活動を通じた指導の充実を図るとともに、児童が国語の学習の有用性を実感できる指導を工夫・改善していくことが求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が59.8% (26年度56.9%)となっており、全国平均を5.4ポイント下回っている。昨年度と比較し、向上の傾向は見られるが、引き続き、資料から得た事実や情報を基にそ

れらと関係付けながら自分の考えを明確にし、話したり書いたりする言語活動を工夫することが求められる。

- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が59.7%（26年度57.3%）となっており、全国平均を1.5ポイント下回っている。今後は、目的や意図に応じて児童が自分の考えをもち、さらに相手に分かりやすく伝えるための工夫をしながら話したり書いたりすることができるような言語活動を位置付けていくことが一層、求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が71.9%（26年度70.3%）となっており、全国平均を0.8ポイント下回っている。今後は、目的や意図に応じて、児童が自分の考えをもち、その理由を書いたり話し合ったりする言語活動を通じた授業を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が77.4%（26年度76.3%）となっており、全国平均を0.2ポイント上回っている。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識したりしながら文章全体を読む指導の一層の充実が求められる。